

「市民が主役の魅力あるまつど」をテーマに、さまざまな角度から街の魅力をお伝えする特集号の2回目として、現在の松戸の文化・芸術の市民活動内容を紹介します。特集企画をお届けします。

育もう！ひろげよう！  
まつどの文化・芸術活動  
座談会



石上瑠美子氏

萩野正和氏

小林恵美氏

水村和香氏

奥村高明氏



文化・芸術と聞いて「難しそう」「敷居が高そう」と感じたことはありませんか？  
市では平成25年度内に「松戸市文化芸術振興基本方針」の策定と、文化によるまちづくりの推進に向けて作業を進めています。  
そこで、松戸の文化・芸術が身近なものであることを知ってもらうため、松戸市文化芸術振興懇話会委員の奥村高明氏を中心に、松戸の文化・芸術にさまざまな関わり方をしている人々を迎えて座談会を開催しました。  
また、特集の4ページ目では松戸に芽吹く文化・芸術として「暮らしの芸術都市」と「ポップカルチャー」を紹介しています。  
皆さんも身近なところから文化・芸術活動を始めませんか。

松戸で文化・芸術の活動をすると

座談会参加者 (五十音順・敬称略)

**石上瑠美子 (いしがみ・るみこ)**  
NPO松戸市民劇団理事長として演劇に関わるほか、まつど観光大使・松戸市観光協会理事・松戸シティガイド相談役・松戸探検隊ひみつ堂の運営など松戸の観光面でも活動

**奥村高明 (おくむら・たかあき)**  
聖徳大学通信教育部長・児童学部児童学科教授。松戸市文化芸術振興懇話会の委員として、市文化芸術振興基本方針の策定に関わる

**小林恵美 (こばやし・えみ)**  
松戸市文化団体連盟副会長。松戸市話し方友の会や市立図書館おはなしボランティアなどで活動。常盤平文化連合会会長も務める

**萩野正和 (はぎの・まさかず)**  
studio-MoC代表として、地域づくりの活動を手掛ける。21世紀の森と広場で「ドコでもシアター」を市と共催。まつど観光大使も務める

**水村和香 (みずむら・よりか)**  
女性ダンスグループ・みんな's代表。平成19年に開催された矢切公民館のジャズダンスに参加したことをきっかけに自主企画グループを結成し、継続的に活動している

**奥村**

今回は、松戸で文化・芸術に関わる活動をしていらっしゃる皆さんに、それぞれの活動から得た経験や体験を交えながら、これからの松戸の文化・芸術について広く話し合っていたきたいと思います。まずは皆さんが活動をはじめたきっかけを教えてくださいませんか？

**石上**

私は松戸市生まれの松戸市育ち、友達がたくさんいる松戸が大好きです。小学生のころから続けてきた芝居を通して、もっと松戸を好きになってくれる人が増えてほしいなと思って劇団を立ち上げました。  
僕は大学でまちづくりや都市計画について研究していた時に他の地域の活動にはいろいろと携わっていたのですが、自分の地元である松戸で何かできないかなと思ったことが地域づくりの活動を始めたきっかけです。

**萩野**

私はご近所のママ友達に、広報まつどに載っていた講座のジャズダンス体験に誘われたことが始まりでした。昔バレエのダンサーをしていた

**小林**

私も最初のきっかけは広報まつどでした。昭和51年に広報まつどで日本語の話し方講座の募集を見つけて、話し方の勉強を始めました。今では自分の講座で教えたり、絵本の読み聞かせをしたり、日本語の話し方を軸にしたさまざまな文化活動に関わらせていただいています。日本語の話し方と並行して編み物も長く続けています。松戸駅の市民ギャラリーにおいても、発表の場を設けていただいています。



# 世代を超えた人と人とのつながり

**石上** 劇団を立ち上げて35年になります。芝居をやっているというより、劇団をやっているというより、思いますね。それは思いを共有できる仲間がいるから。芝居は、たとえ一人芝居でもスタッフとともに作り上げていきますから、お客さまに見えないところで多くの人が関わっています。年齢も育った環境も違う人たちが集まっているので、時には衝突もしますが、それを認め合ったり、譲ったり、我慢したり、コミュニケーション力が鍛えられるから、劇団は人間道場です。よく聞かれますが、私たちはプロを自指してはいません。この松戸という土地に根付いて仲間を増やし、そこに携わる人



**水村** たちとずっと関係をもちながら、大好きな芝居を続けていくことが目標ですね。だから「松戸市民」劇団なのです。これだけ長く続けていると、学生だった子が就職したり、結婚したり、子供を持ったりと、大人になつていく姿を間近で見ることが出来ますので、楽しいですね。「入ってきた時は18歳だけど今いくつだっけ」などと50歳に近い団員に言われて笑われたり。そういう関係性はともうらやましいです。私の所属する自主企画講座は若い人も年配の人もダンスが好きという同じ気持ちで隔たり



**小林** 私も活動を通して、人と人とのつながりが強くなる幸せな瞬間を感じる時があります。例えば園児に絵本の読み聞かせをしている時。本を中心に私と本と子ども3つが一体になって、子どもにとって私はおばあさんでも本を読んでもくれる人でもなく、「本の中の住人」になれていると感じる時があるのです。  
**奥村** 文化や芸術活動を通して、人と人とのつながりを世代を超えて築いていくことが出来るんです。市の文化芸術振興基本方針では、次世代への文化・芸術の伝承や幼少期における関わり方などを一つの重要な課題としていますが、次世代に文化や芸術を伝えていくには教育の現場と長いスパンで関わりながら続けていけるような仕組みづくりが大事になりますね。



## 地域に根ざしたふるさと劇団



20〜70代まで、さまざまな年代が八柱駅前の稽古場で毎週汗を流しています。団員は総勢17人。役者だけでなく音響などの裏方を含め一人何役もこなします。劇団員という、個々が前に前に出ようとするイメージがありますが、市民劇団はチームワークでまとまっています。入団して丸1年の宇野達也さん(35歳)は「地元商店会などと協力しながら、地域密着でも活動しています。想像していた「劇団」の雰囲気とは違いますが、異業種の人やいろいろな年代の人と触れ合うのは刺激になります」と楽しそう。設立から35年。合津浩則団長は「世代・性別を問わずみんなが集まれる場所として、100年を目指して続けたい」と、これからも誰もが帰ってこられる「ふるさとのような劇団」を目指します。

## 活動を通して感じた松戸の良さ

**奥村** 皆さんは活動を通して、松戸の良さを感じることはありますか？  
**秋野** 僕が「ドコでもシアター」を始めたのは、21世紀の森と広場が本場にすぎな公園だと思っていて、この場所をもっと生かすことができなかつたのが発端でした。  
**小林** あの公園は緑が多いだけでなく、松戸のちょうど中心地にあつて駐車場もすごく広い。イベントに訪れる人も集まりやすい場所ですよね。  
**秋野** ええ、あんな自然豊かな公園が市街地のど真ん中にあるところは他の街にはなかなかありません。そ

**水村** 松戸は交通の便もいいので、イベントや活動に遠方の人が参加しやすいです。私の所属する自主企画講座は若い人も年配の人もダンスが好きという同じ気持ちで隔たりなく活動していますが、会員で結構転動される人が多いですね。せっかく慣れてきたところで転動という人が何人もいらつてしまいます。反対に松戸に引っ越しにくる人も多いので、ダンス好きな方は体験にきて仲間になつてほしいと思います。



**奥村** 都部で子ども連れの人や文化や芸術に触れようとすると、子どもを預けたり親子がバラバラにならざるを得なかつたりする。ところが広い場所がある松戸だったら、まさに、親子と一緒に文化・芸術に触れることが可能になると。  
**秋野** わかります。僕らの活動でも思いや夢はもちろん必要ですけど、それだけで続けていけないのですよね。一緒に活動してくれたり、活動を知ってもらうための広報の支援などがあるので、すごく励みになっていてこれからは頑張っていけるのです。もっと盛んになればいい。

## 健康的に楽しく創造力醸成



## ジャズダンス「みんな's」

公民館のジャズダンス成人講座終了後、参加メンバーが集まり自主企画講座として立ち上げました。「まず、けがをしないこと。あとは楽しく」。講師を務めるジャズダンサーの小山彰子さんは、安全を第一に創造性に富んだ振り付けで、笑顔になれるダンスレッスンを心掛けています。ジャズダンスと聞くと「敷居が高い」と思う人が多いようですが、レッスンはストレッチや呼吸法などに十分に時間をかけ、リラックスしながら少しずつ体を動かすことができます。レッスンは週に1度、2時間程度。3カ月かけて1曲分のダンスを習得します。ダンスを始めて1年半の島根真砂子さんは「ハードな時もありますが、1曲を終えた時は充実感があります」と満足そう。メンバー内で発表会開催の機運は高まっています。さまざまなダンスの要素を含むジャズダンスが多くの人目に留まれば、ダンス活動全体の活性化につながるかもしれません。

## 文化・芸術が身近にあるまちにするには

**奥村** 文化芸術振興基本方針の中でも、地域の人たちへの周知活動は重要な柱の一つですが、皆さんが文化・芸術において市にしていることや、松戸がこうなつてほしいと思うことはありますか？  
**小林** 昔は小学校や中学校のクラブ活動で編み物や和裁があつたのですが、最近はそれがないところが多いのが寂しい。日本人は世界で一番器用な手を持っていると言われてきたのに、今は針を持つたことがないという人もたくさんいるのですよ。例えば着物を縫うのも完成まではかなりの時間がかかりますから、教える側も子どもも覚悟と根気が必要になりますけど、やり方はいろいろあると思うのですね。私が副会長をしている松戸



**石上** 劇団を立ち上げた時には、市役所の職員が二人三脚で協力してくれました。そんな風に、市民と職員と一緒にまつて松戸の文化を盛り上げていけたらよいのではありません。お金の援助もありがたいのですが、そういう心の支援がたいの

**水村** 興味があつてもなかなか最初の一步が踏み出せないという人たちがたくさんいると思います。文化や芸術の活動って、敷居が高く見られちゃうことも多いので。地元のご年配の方に「いつもイベントの次の開催日をカレンダーにマールを付けて、楽しみにしながら日々を過ごしています」と言っていたことがあつてとてもうれしかったです。そうやって、いつの間にか松戸で暮らす人たちの生活の一部になっている、というのが理想です。最終的には、「松戸で暮らしていて良かったね」とか「松戸で暮らすと良さそうだね」と思っていただけだったらいいなと。

**水村** ダンスが好きなのが松戸に来た時に、ダンスができる場所を少しでも増やせるようにこれからも続けていけたらと思っています。  
**秋野** 僕は松戸で育つてきたことで、今の自分のアイデンティティ(独自性)に松戸の街から受けた影響が少なからずあると感じています。そういう街の根底にある地域遺産のようなものを、活動を通して自分も作つていきたいし、次の世代に残していけたらと思います。

**石上** 以前は文化・芸術を「心のビタミン」なんて私は言っていました。今やそれを通り越してむしろ「水」のように不可欠なものになっていて感じます。松戸で文化や芸術の活動が出来ること・見ることが出来る環境をどんどん作つていって、松戸で育つ子どもたちや松戸を支える大人たちが好きなことができて、またそんな仲間を増やしていければいいですね。  
**奥村** そうですね、今日は文化・芸術の薫る松戸を目指してできること、していくことのヒントを皆さんからたくさんいただきました。本日はありがとうございました。

## 公共施設空間の活用



ドコでもシアターは21世紀の森と広場内のさまざまな場所をそのままシアターに見立て、演奏会などのパフォーマンスとともに公園の魅力を提供するイベントです。市とこのイベントを共催するstudio-MoCは、地域でまちづくり活動を展開するメンバーで構成されています。昨年10月に行われたドコでもシアターでは、21世紀の森と広場の「広場の橋」下を会場に反響の良さを活用して、オペラ作品の有名なアリアが演奏され、多くの参加者が聞き入っていました。

**企画イベント** フクラむ春に、ハズむ音  
3月21日(木)11時30分〜12時30分、14時15分〜15時15分  
会場 21世紀の森と広場「中央口」前広場(雨天の場合は「広場の橋」下) 内容 ミュージカル・アンソロジー演奏ReMIX 費用無料 <http://docosia.com/>  
パークセンター ☎345-8900

**石上** 私は松戸に映画館が復活してほしいと願っています。48万人の都市に映画館が一つもないのは寂しいですし、市民として恥ずかしい。仕事帰りや買い物のかごにちょっと映画が見られるとか、そういう市民が文化・芸術を身近に触れたいし、環境づくりにも力を入れていきたいです。そのために市民と行政が力を合わせる事が大切です。

## 世代を超えて人づくり



取材した日は図書館とおはなしボランティアが協力して行う「絵本はじめの〜っぽ」でした。絵本の読み聞かせの前に、手あそびで子どもの気持ちをつかむところから始まり、2冊の絵本を読み終わったらまた手あそび。親が子どもに絵本を読んでもあげる時間もあり、この日は18組と多くの親子が参加するのうなげます。今回初めて参加した野沢さんは、「手あそびもあり、楽しく参加できました」と感想を述べていました。ボランティアの加藤さんは、「1カ月前くらいに本を借りて家で鏡を見ながら、声を出して読み込み、自分のものにしてから読み聞かせに臨みます。おはなしボランティアは100人ぐらいますが、男性も3人います。ボランティアに来るたびに親子からエネルギーをもらえるので楽しいです」と話してくれました。

## ポップカルチャー

日本が世界をリードする文化「ポップカルチャー」は松戸にも根付きつつあります。昨年11月に森のホール21で行われたJapan Pop Culture Carnival 2013 in Matsudo (JPCC) ではアニメソング・アイドル・ロック・民謡などジャンルを超えたアーティストたちによるライブが開催され、ポップカルチャーが持つパワーを示しました。

21世紀の森と広場や、昨年11月に八柱駅前中央商店会にオープンした「コミュニティ・コスプレスタジオ」などでは、マンガやアニメ・ゲームなどのキャラクターにふんじた人たちがコスプレを通じ、撮影やファン同士の交流を楽しむ姿が見られます。こうした活動もポップカルチャーの1つの側面であり、文化・芸術の裾野の広さを感じさせます。

21世紀の森と広場でコスプレするという香乃子さん(下部写真右)は、「日常の風景とかけ離れた屋外での撮影は全体的に光が入り、写真がきれいに撮れます」とその楽しさを語ってくれました。



21世紀の森と広場にて



コミュニティ・コスプレスタジオにて

アニメ、マンガ、アニソン、アイドル、J-ROCK、ファッション…ポップカルチャーは日本の新しい顔。日本は日本にしかないものを創る国。世界はこう日本を評価します。少しだけ残念なのは、こうした一つひとつのジャンルに別々な動きが多いこと。東京というエンタメの中心から少しだけ離れて、でも近い。この絶妙な距離感を生かしたJPCCのような、ジャンルを超えたイベントやモノづくりが松戸でたくさん生まれればすてきです。

### ● JPCC企画・櫻井孝昌氏

プロデューサー、ジャーナリスト、デジタルハリウッド大学・大学院特任教授。25カ国のべ120都市以上で文化外交活動を実施中。著書多数。



JPCCフィナーレの様子



JPCCの様子



©Mariko Matsubayashi

## 松戸に芽吹く

# 文化芸術 を紹介します

市に根付きつつある新たな文化・芸術として、松戸駅周辺でアートの裾野を広げる活動をしている「暮らしの芸術都市」と、マンガ・アニメ・ゲーム・ファッション・音楽・カワイイといった世界が注目する日本独特の文化活動「ポップカルチャー」について紹介します。



おんがくじゅんびしつの様子(上下とも)



©加藤甫

## 暮らしの芸術都市

松戸駅周辺の地域住民を基盤とした松戸まちづくり会議は、住民同士の対話の中から生まれた創意工夫の活動を通して、地域をつなぐまちづくりに取り組んでいます。同会議と芸術家等でまちづくりとアートを横断する取り組みを「暮らしの芸術都市」と名付け活動しています。

〒松戸まちづくり会議事務局  
☎710-5861、政策推進課☎366-7072



まちづくり会議の様子

### 主な活動

## パラダイスエア

(松戸駅西口の楽園ビルを活用した芸術家滞在施設)



PARADISE AIR

### 長期滞在者選考委員2人のコメント

現在滞在しているPawel Dziemian (パヴェル・ツィエミアン) は、日常的に見慣れている普通の風景の中に異様さを嗅ぎとり、その異様さを自らの行為によって際立たせることで作品をつくるポーランド出身のアーティストである。「作品をつくる」というよりも、都市や視覚に「介入する」と言うべきかもしれない。その彼が松戸で何を見つけたのか。楽しみだ。

● 東京藝術大学准教授・毛利嘉孝氏

新しいまちづくりのモデル作りから始まった事業で、しゃくし定期的な地域振興とは一線を画す自由な雰囲気にあふれている。新しい試みに期待したい。

● アーツ前橋館長・住友文彦氏

## パヴェル・ツィエミアン成果展示会

3月8日(土)・9日(日)11時~20時

会場本町神酒所(本町7の9) 費用無料

〒松戸まちづくり会議事務局☎710-5861

### じゅんびしつ

現代芸術家・中島佑太氏が企画するじゅんびしつの主な活動内容は、「子供たちを対象としたワークショップとその準備をすること」。今回のプロジェクトのタイトルは一緒に「準備をする」市民のグループ名でもあり、地域のコミュニティづくりを意識した活動を行っています。

## 市民活動団体を 探すには



昨年発行し、市内全戸に配布した松戸市市民便利帳「生活カタログ」には、さまざまな分野にわたる市民活動団体の連絡先を掲載しています。

また、生涯学習情報提供システム「まつどまなびいネット」(<https://www.matsudo-s-edu.jp/>)では、文化系の社会

教育関係団体や自主企画団体などを探すことができます。

文化・芸術に関する活動を始めた人は、ぜひご利用ください。

〒広報広聴課(広報担当)☎366-7320(市民便利帳)、公民館☎368-1214(まつどまなびいネット)

広告

# 広告スペース